

本銘柄の分析、見直し、投資判断は株式会社フィスコの株式リサーチ部によるものです

日本風力開発 (2766)

下げ過ぎ・・・外国人投資家も着目？

東証マザーズ [2766]	
売買単位	1株
11/20終値	258,200円
目標株価	293,000円

どうして？



風力発電で業界3位、売電事業が主軸

11月下旬にファイナンス実施、公募価格は248,514円

先週末、国内の主要株価指数でマザーズ指数が一際強い動きを示しました。11/18-19と360p割れから後場に切り返す動きとなり、ローソク足には長めの下ヒゲを2連発。その後の急反発となっただけに、「ボトムアウトが意識される」との声が多く聞かれます。

マザーズ銘柄のなかでは、公募増資発表で急落した同社に注目。希薄化分を上回る株価下落によりリバウンド妙味も。

どうなる？



来期に風力発電所の順次稼働が控えており、中期成長期待の高い銘柄。注目度の高いスマートグリッドの実証事業も、トヨタなどと組んで来年8月に開始予定。

成長期待に反し、足元で株価が急落。これはファイナンスの発表によるものですが、11/10の発表日終値(327,000円)に対する下落は過剰な感も。希薄化は最大18.1%に対し、先週末の終値は発表日終値と比較して21%下落しています。マザーズ指数反転の波に乗るリバウンド相場が期待されます。

どうする？



先週辺りから、オーバーフローの注文で、一部米系証券経由で同社株に買いがきているようです。これは、希薄化分以上に下げた水準を押し目の好機と捉えた動きといえます。また、安定操作期間に入っているため、公募価格(248,514円)割れでは主幹事からの買いが入ることも下支え要因となります。公募株の受渡日11/26までは、これら要因で底堅い展開を見込みます。

年初からみても、250,000円レベルでは下げ止まる傾向が鮮明。ファイナンス発表翌日(11/11)に売り気配から全株一致した際の価格293,000円を上値目標にします。

どうなの？ テクニカル



25日線ベースのボリンジャーバンドの-2 が上値抵抗として機能。この状況は理論上は極端な“売られ過ぎ”を示唆しています。ただ、先週末に25日線-2をようやくブレイク。目先は5日線奪回の動きが期待されます。

週足チャートでも、250,000円レベルが年初からの下値支持ラインになっており、下値リスクは低そうです。

業績推移

(百万円・円)

連結	売上高	前期比	経常利益	前期比	当期利益	1株益
05.03	5,827	19.60	504	-20.13	273	3,092.3
06.03	7,942	36.30	785	55.75	380	3,913.3
07.03	8,094	1.91	535	-31.85	255	2,614.7
08.03	10,522	30.00	1,109	107.29	656	6,403.7
09.03	7,198	-31.59	2,201	98.47	831	6,798.5
10.03予	10,000	38.93	2,500	13.58	1,400	11,029.2

業績予想数値は会社側予想によるものです。

チャート



本銘柄の分析、見直し、投資判断は株式会社フィスコの株式リサーチ部によるものです

船井電機 (6839)

フィリップス効果でテレビ事業が急回復

大証1部 [6839]	
売買単位	100株
11/20終値	4,650円
目標株価	5,400円

どうして?



北米に強みを持つ家電企業

低価格路線の推進とブランド強化に注力

液晶テレビ出荷台数は前年比2.1倍の約270万台と急拡大しており、スケールメリットを享受できる段階に突入しました。

また、収益性の高いフィリップスブランドの買収により、液晶テレビ事業は来期も30%程度の売上成長が期待できます。会社側は11年度に売上高5000億円、営業利益250億円を計画。液晶テレビ事業が今上期に5%の営業利益率を確保したことを踏まえれば、計画達成が視野に入ります。

どうなる?



会社側は2010年3月期業績を上方修正しました。営業利益ベースでは上期の101億円に対して下期予想は19億円であり、極めて慎重な見直しといえます。11月から2月までは中国工場は旧正月などの季節要因もあり、稼働率の低下が見込まれます。このため上期比では減益となる公算が強いものの、液晶パネルの必要量は確保しており、下期の黒字確保と計画達成は十分可能と考えられます。

今期の大幅増益はほぼ確実な状況にあり、大幅な利益成長と上方修正期待が引き続き株価を押し上げる原動力になると考えます。

どうする?



短期的には業績面、需給面ともに死角が乏しく、素直にトレンドへと乗ることが望ましいでしょう。ただし、株価が50日線を大きく下回る状況となると、トレンドに変化が生じますのでシナリオの変更が必要になります。

中期的には上方修正の有無、信用買い残の積み上がり具合などが焦点になります。高値更新にもたつき、信用買い残が積み上がることになれば、需給が悪化しますので注意して下さい。

どうなの? テクニカル



足元の株価は綺麗な右肩上がりを実現できています。その過程においても、信用買い残が大きく積み上がることもなく、需給が悪化した状況にありません。むしろ、信用売り残のほうが多い状況にあり、売り方の買戻しも株価上昇の原動力になり得ると考えられます。

01年9月安値5,400円へのS点回帰も達成可能でしょう。

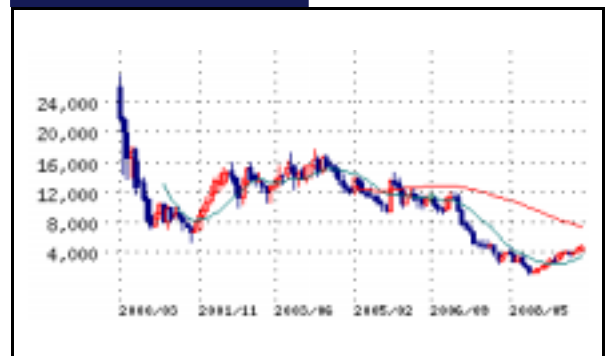
業績推移

(百万円・円)

連結	売上高	前期比	経常利益	前期比	当期利益	1株益
05.03	383,034	11.95	36,616	5.62	25,722	719.6
06.03	360,885	-5.78	27,461	-25.00	21,596	620.0
07.03	396,712	9.93	26,591	-3.17	-3,665	-107.0
08.03	277,167	-30.13	-39	-	-5,376	-157.7
09.03	302,777	9.24	1,226	-	-17,364	-509.3
10.03予	330,000	8.99	11,400	829.70	8,700	255.2

業績予想数値は会社側予想によるものです。

チャート



本銘柄の分析、見直し、投資判断は株式会社フィスコの株式リサーチ部によるものです

日本ケミコン(6997)

次世代エネルギーで話題性が豊富

東証1部 [6997]	
売買単位	1,000株
11/20終値	265円
目標株価	360円

どうして?



アルミ電解コンデンサーでシェアトップ

LEDテレビ向けなどでの需要拡大にも期待感

電気自動車やスマートグリッドなど「環境配慮」が話題となるなか、コンデンサ大手の同社に注目が集まっています。

産業機械向けや、LEDテレビ向けコンデンサ需要の拡大期待に加え、独自の加工技術でも強み。リチウムイオン電池に比べ電気をため込む容量が少ないキャパシタでは、蓄電容量を増やし実用化を進めるなど、世界に通用する技術を有しています。

どうなる?



11/4に通期見通しが下方修正され、株価はピーク時の9/28からおよそ半分の水準にまで調整しました。下ブレ要因は、産業機械の回復の鈍さも一因ですが、1ドル=100円という為替前提の影響が大きいといえるでしょう。

下期はこれを90円に見直したほか、海外生産比率や原料の円貨建て比率の引上げなども検討。下方修正されとはいえ、足元の経常赤字は縮小傾向にもあります。今後は業績の改善が株価に反映される局面と考えます。

どうする?



短期的には、テクニカルな動きが焦点になります。11/20には大陽線を示現。これがリバウンド開始の狼煙となるか否かに注目しておきましょう。11/19安値243円を再び下回れば、シナリオの変更が必要になります。

中期的には、業績の回復度合いが焦点になります。3Q経常赤字が2Qのそれを下回るか否か、できれば4Qに黒字転換が視野に入るか否かが重要です。

どうなの? テクニカル



9/28高値を付ける過程で出来高をこなしていることから、一本調子の戻りは期待し難いでしょう。ただ、株価は週足ベースの一目均衡表雲下限に接近、下げ渋りの動きを見せています。いったんはリバウンド局面入りとなっても、おかしくありません。雲下限に沿ったりバウンドも想定できます。

目標株価は、9/28高値474円から直近安値243円の半値戻しレベルに設定しました。

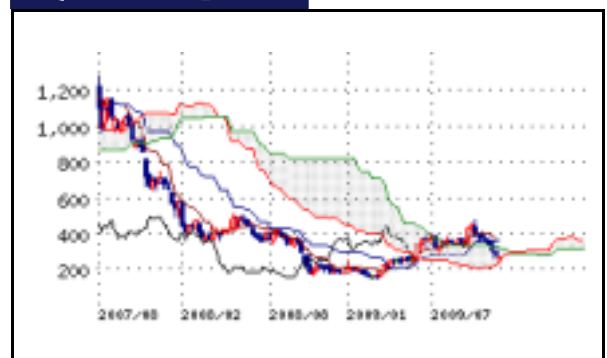
業績推移

(百万円・円)

連結	売上高	前期比	経常利益	前期比	当期利益	1株益
05.03	105,714	3.34	5,393	114.86	2,659	20.7
06.03	120,918	14.38	7,199	33.49	3,991	31.3
07.03	135,105	11.73	8,978	24.71	5,572	44.1
08.03	143,206	6.00	4,437	-50.58	2,512	19.9
09.03	114,578	-19.99	-6,015	-	-12,700	-103.3
10.03予	99,000	-13.60	-5,300	-	-5,800	-49.5

業績予想数値は会社側予想によるものです。

チャート



本銘柄の分析、見直し、投資判断は株式会社フィスコの株式リサーチ部によるものです

リンテック (7966)

国策に絡んだ材料の引き出しが豊富

東証1部 [7966]	
売買単位	100株
11/20終値	1,595円
目標株価	1,770円

どうして?



粘接着製品が主力

液晶関連製品や電子部品関連製品が好調

今年度の第2次補正予算案の編成で、経済産業省は省エネ家電を購入した人に付与する「エコポイント」の制度を期限が切れる来年3月末からさらに9ヶ月程度延長する検討に入りました。

これが決まった場合、液晶テレビなどの駆け込み需要は無くなる見通し。ただ、期間延長により業績メリットを受ける企業群も多く、同社など関連銘柄にはプラス反応が期待されます。

どうなる?



期間延長となれば、メーカーのLEDテレビへの移行による需要増加も取り込める点でメリット大。そのほか、家庭で発電した電気の余剰分を従来の2倍の価格で買い取る制度の普及で、同社の太陽電池モジュール用バックシートの拡大も期待されます。

さらに、住宅の新築や改築に際し、断熱効果の高い壁などを取り入れた場合にポイントを与える「住宅版エコポイント」も導入する方向。断熱効果のある建築用ガラスフィルムなども株価の押し上げ材料になるでしょう。

どうする?



株価は2月安値(1,005円)をボトムに上昇基調を強め、8/26高値(2,015円)でピークアウト。現在はこの上昇に対する調整により、既に半値押し水準まで調整しました。結果、PBRは1.04倍、予想PERで20倍割れの水準に。目先的には底打ちから、リバウンドをうかがう展開が予想されます。

これまで25日線が上値抵抗として機能しており、これを確実にクリアしてくるようなら、リバウンドの動きが一段と強まると考えられます。上値の目標は、一目均衡表の雲上限1770円付近と想定。

どうなの? テクニカル



5日線と25日線のゴールデンクロス形成が目前に。株価は5日線を捉えており、目先は上値抵抗の25日線突破なら強気転換のサインと判断できます。

既にMACDは強気転換済み、パラボリックの買い転換も近そうです。価格帯別出来高の多い1,700円~1,800円のレンジがリバウンド時のターゲットとなります。

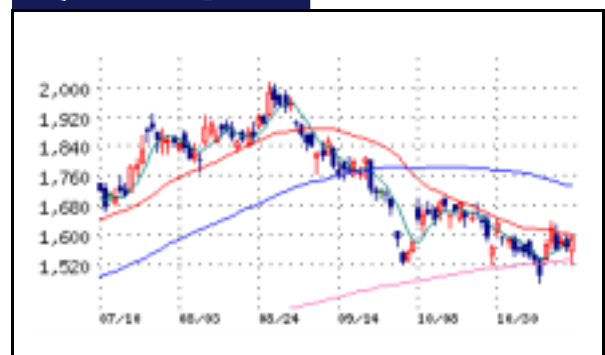
業績推移

(百万円・円)

連結	売上高	前期比	経常利益	前期比	当期利益	1株益
05.03	171,689	8.02	11,715	21.73	7,759	108.8
06.03	180,334	5.04	13,561	15.76	9,010	118.3
07.03	192,722	6.87	14,700	8.40	10,238	135.4
08.03	202,296	4.97	13,279	-9.67	9,308	123.2
09.03	194,901	-3.66	5,654	-57.42	3,391	44.9
10.03予	182,000	-6.62	8,700	53.87	6,200	82.0

業績予想数値は会社側予想によるものです。

チャート



本銘柄の分析、見直し、投資判断は株式会社フィスコの株式リサーチ部によるものです

タクトホーム(8915)

業績上ブレ期待&テクニカル妙味

東証1部 [8915]	
売買単位	1株
11/20終値	70,000円
目標株価	85,000円

どうして?



独立系のパワービルダーで一都三県が地盤 足元業績の急拡大に期待

先週末は新興市場の主要指数が軒並み急反発しました。個人投資家の処分売りがピークを通過したとも想定できる状況になってきました。

今後は、米クリスマス商戦を控えて主要銘柄への様子見ムードが継続すると見られます。売買の主体が個人投資家となる可能性は高く、直近で下げのきつかった銘柄群のリバウンドに関心が向かうと考えられます。その候補として、パワービルダーに注目します。

どうなる?



先週末には、同業の1社である東栄住宅が80億円のシンジケートローン契約締結を発表しました。これにより、同社をはじめとしたパワービルダーは急反発の動きも想定できます。

同社については、短期業績急拡大への期待感を背景に、再度高値奪回に向けた展開が期待されます。会社側の今通期の営業利益計画は13.5億円、前期比7.4倍見通し。これについては、相当程度の上ブレが期待されており、野村証券では28億円で同15.5倍とも予想しています。ここまでの上ブレとなれば、PER水準での割安感からも相当な水準訂正が期待されます。

どうする?



株価は11/6の高値100,000円から、10営業日で最大約35%のスピード調整。10月初旬の上昇前の水準に達しており、調整一巡感も強まる状況といえるでしょう。

まずは、パワービルダー各社のリバウンド機運が高まるかどうか、個人投資家主体のマザーズ銘柄などが一段の戻りを試せるかどうか注目。その場合、5日線(71,300円)突破による強気転換が賢明策と考えられます。上値目標は、25日線手前の85,000円に。

どうなの? テクニカル



ボリンジャーバンドの-2 (68,173円)水準まで調整しており、押し目ポイントに到達。

足元の下落で、下方に位置していた一目均衡表の雲にも接近しています。雲は年末まで切り上がる形状となっており、雲下限をサポートにできた場合には先高期待が広がりそうです。

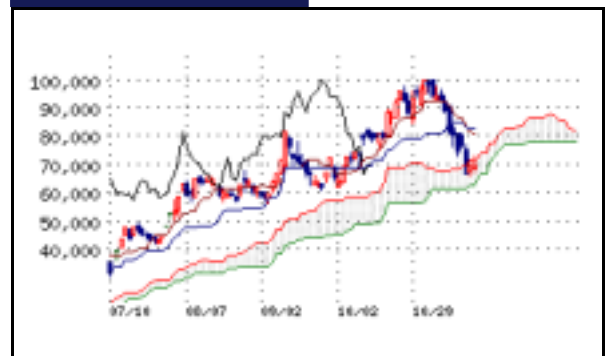
業績推移

(百万円・円)

単独	売上高	前期比	経常利益	前期比	当期利益	1株益
05.05	60,689	39.78	4,547	-2.15	2,584	10,888.2
06.05	46,910	-22.70	3,492	-23.20	1,961	8,160.2
07.05	53,092	13.18	3,936	12.71	2,308	9,600.8
08.05	64,923	22.28	2,068	-47.46	1,056	4,393.5
09.05	58,269	-10.25	-37	-	-215	-915.5
10.05予	40,000	-31.35	1,200	-	685	2,975.4

業績予想数値は会社側予想によるものです。

チャート



重要事項(ディスクレーム)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪証券取引所・ジャスダック証券取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

“JASDAQ INDEX”の指数値および商標は、株式会社ジャスダック証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

掲載される情報はフィスコが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容および情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコは保証を行っており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告無く変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

フィスコが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や

世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

フィスコおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ